

学年：1年	単元名：16. なんじなんぷん
-------	-----------------

1. 単元目標：(全2時間)

○何時何分の時刻の読み方を理解し、時計の短針と長針の関係を基に時刻の読み方や表し方を考える力を養うとともに、それらを日常生活の活用しようとする態度をやしなう。

考判表・具体的な操作を通して、時刻の概念を作る。

- ・短針と長針の関係を基に時刻の読み方を工夫する。

知・技・何時何分の時刻を読んだり、時計で表したりすることができる。

- ・何時何分の時刻の読み方を理解する。

2. 指導内容

- ・何時何分のよみ方

3. 指導のポイント

○単元「8」で「5ずつ」を指導しておくといよい。

○文字盤は、2種の量のめもりがあることに気づかせる必要がある。

- ・数字は、「時(短い針)」のめもり、小さいめもりは、「分(長い針)」のめもり。
- ・とけいは、短い針のめもりを読んだから、長い針のめもりを読む。
- ・短い針は、数字の間にあるときは、「前」で読む。

「短い針が、3と4の間にあるときは、3時と読みます。」

- ・長い針のスタートは、「12」です。

「長い針のスタートは、「12」です。ここが「0」です。ここから、小さいめもりで、1,2,3・・・と読みます。数字のところか、「5ずつ」になっているので、5,10,15、・・・と読みやすいようになっています。」

- ・「時刻が読める」「時刻をつくれる」の両方を取り扱う。

○学校生活の中で使っていくことが大切である。

4. 指導にあたって

①子どもたちにどんな見方や考え方を獲得させたいか。

②それを通してどんな子どもに育てたいか。

5. 学習展開

第1時

学習のめあて（作業・知る・考える）
○時計を見て、今、何時か知ろう。そして、時刻を作ろう。（P108/109/110）

教師の発問と活動・子どもの発言と活動	知識・理解・資料・評価・留意点 他
<p>1. 問題把握</p> <p>T:今日は、時計の勉強です。 何時何分かということがわかればいいですよ。</p> <p>T:これは何時ですか？（8時30分）→C:8時半。 8時30分</p> <p>T:なるほど。では、たずねますね。どうして、8時だとわかるのですか？</p> <p>C:短い針が、8と9の間にあるから</p> <p>T:なるほど。では、「半」とはどういうことですか？→C:長い針が、ちょうど半分。</p> <p>T:長い針は、どこからどこまで動くの？→C:12から12まで。</p> <p>T:長い針のスタートは、「12」？→C:そうです。</p> <p>T:長い針が、1周したら短い針はどうなるの？→C:9時になる。（1めもり進む）</p> <p>T:長いのは1周したら短い針が1めもり進むのですね。</p> <p>T:では、30分と言った人は、どういうことですか。→C:小さいめもりが、30あるから。</p> <p>T:30?数えたの?→C:5ずつだから5・10 15・・・30</p> <p>T:なるほど。短い針のめもりは、「数字」ですね。 長い針のめもりは、小さい「点」ですね。 長い針のスタートは「12」ですね。 そして時計は、短い針のめもりを読んで、長い針のめもりを読むのですね。 そして、半分のときは「半」というのですね。 （ここまでは、既習事項）</p> <p>T:では、これは何時何分ですか。（9:03）→C:9時3分</p> <p>T:どうして?→C:小さい「点」を数えた。</p> <p>T:なるほど。では、これは?（9:17）→C:9時17分</p> <p>T:どうして?→C:小さい「点」を数えた。</p> <p>T:もっと速い数え方は、ないかなあ?→C:5・10・15・16・17</p> <p>T:なるほど。5ずつ数えて、その後1ずつ数えるのですね。</p>	<p>・模擬時計</p>
<p>2. 自力解決・学びあい</p> <p>T:では、次の時刻を読みましょう。 ※1分単位で、示す。30分のときだけ両方の言い方をさせる。 ※読み方を確認しながら進める。</p> <p>T:次は、先生が言う時刻をつくりましょう。 ※1分単位で、示す。30分のときだけ両方の言い方を示す。</p>	
<p>3. まとめ・ふりかえり</p> <p>T:時刻の読み方・つくり方は、わかりましたね。 ところで、9時3分なら、みんなは何をしていますか。</p> <p>T:では、10時25分は？</p> <p>※生活における時刻と生活の関係を確認する。</p>	<p>C:学校に来て、1時間目。 C:休み時間。</p>

第2時

○教科書の問題をする。教科書に記入。（P108/109/110）

○練習問題